

# 松山市教育会情報

発行所 松山市教育会  
松山市祝谷町1-5-33  
☎ 089-933-0354  
ホームページアドレス  
<http://matsukyoiikukai.main.jp/>  
発行者 清水 昇  
責任者  
編集 調査研究部

## ヒントは身近なところにある



副会長  
相原 孝裕



「子規さん俳句かるた」より

松山市教育委員会 編  
松山市立子規記念博物館 監修

「松山市教育会は、公益財団法人愛媛県教育会の松山市の地区教育会です。」松山市教育会のホームページを開くと最初にこの言葉が目に入ります。前号で清水会長が市教育会活動の中で三つの重点的な取組（組織の活性化、広報活動の充実、学校教育活動への協力と支援）について示されていました。私は、教職員の立場から学校と市教育会とのつながりについて述べたいと思います

まず、小学校区の教育会代表として支部長さんが、入学式、卒業式等の学校行事に地域の御来賓として来られます。また、学校評議員、学校関係者評価委員等として学校に御意見・御助言等をいただいたりしています。子どもは地域の宝、未来の創り手です。社会総がかりで子どもを育てるために、多くの教育会OB会員の方々が、子どもの見守りや公民館活動、ボランティア活動に関わり、地域と共に歩む学校づくりに御協力をいただいています。教職員は数年の在校期間ですが、OB会員の皆様はずっと地域で貢献されています。

次に、各学校では、教育活動の充実を図るために、教育会OB会員の方々の御支援・御協力をいただいています。例えば、俳句や書道教室、昔の遊びや地域の文化財の紹介等があります。学力向上に向けて授業や放課後での学習アシスタント等での支援もいただいています。特に専門性を生かして音楽やスポーツ指導を行っている方もいます。このようにして、学校は教育会OB会員の方々と共に、一人一人を大切に、個性を生かす教育に取り組んでいます。

そして、来年度から小学校で新学習指導要領の全面実施となり、各学校ではその趣旨に沿った教育を行っているところです。教職員の中には少なからず不安を抱えている者もいます。市教育会の講座には、今年からプログラミング講座が開設されました。また、夏休み中には教育講座（メンタルヘルス、特別支援教育）も開催されました。11月の松山教育フォーラムで講演会もあります。このように市教育会では様々な研修の機会を提供しておりますので、教職員の資質・能力の向上に活用していただきたく存じます。

現在、学校においては、いじめ問題・不登校等への対応、防災・減災教育、働き方改革等の喫緊の課題があり、学校、家庭、地域社会が連携・協働して取り組まなければなりません。「公立学校の底力」の著者である清水宏吉氏（大阪大学大学院教授）は、公立学校の長所・特徴は、地域性、平等性、多様性だと示しています。ヒントは身近なところにあります。今、学校の身近にあるものを大切にしながら、教育会現役会員とOB会員が、何ができるかを考え、具体的な動きを進めてまいりたいと思います。今後とも御協力をよろしく願いいたします。

# 平成30年度 教育功労者 松山市教育会



松山市教育会では、本年5月18日の松山市教育会定期総会において、以下のとおり、10氏に第52回教育功労賞をお贈りしました。

## 野本 静雄氏

小学校教員退職後、松山市立三津浜幼稚園長や三津浜図書館長などを歴任し、幼稚園教育や図書館運営に尽力した。

平成10年からは民生児童委員を15年間、平成12年からは社会福祉協議会役員として18年間、下校時の児童の見守り制度を提案・実践化したり、地域住民個々の相談に応じたりして生活課題の解決に取り組んできた。そのうち6年間は、味生地区福祉協議会長として地域全体の福祉推進のため、積極的に取り組み成果を上げた。

さらに、平成12年からの18年間は、味生児童クラブの会長として、需要増に対応する活動場所や支援員の確保など、直面する課題に精力的に対応し、児童クラブの円滑な維持・運営に多大の貢献をした。

## 田村 順子氏

小学校教員として、温かな人柄と高い指導力で、非常に優れた学校運営を行ってきた。特に、最後に勤務した久米小学校では、「子どもたちに、自分の住む町を好きになり、自分に誇りを持って成長してほしい。」という願いから、生活科や社会科、総合的な学習の時間（とっ久米タイム）で活用できる郷土資料集「ふるさと久米」を改訂した。この資料は、現在も活用されている。

退職後は、松山市教育会久米支部会員として、長年にわたり積極的に支部活動に参加してきた。平成25年度から29年度末までの5年間、久米支部長として支部組織の活性化に尽力した。特に、現職会員、OB会員との連携の緊密化を図り、会員相互の親睦に努めた。また、「学校評議員会」「久米の教育を語る会」「久米地区健全育成連絡協議会」等においても、適切な助言を行った。

## 砂田 孝夫氏

昭和56年に公立小学校に赴任し、以来長年にわたり小学校教育の推進に尽力するとともに、平成14年度からは教頭として、また平成23年度からは校長として、教科指導や学校運営にリーダーシップを発揮してきた。特に、算数・数学については専門性を発揮し、愛媛県教育研究協議会算数・数学委員会委員長を務めるなど、県内の算数・数学教育を牽引してきた。

また、松山市教育研究協議会においても、部長、副会長、会長を歴任し、松山市教育の進展に寄与するとともに、教職員の身分・給与並びに勤務条件の改善、ワークライフバランスへの支援等に務めてきた。

さらに、松山市教育会においては、理事、副会長を歴任し、調査研究や研修等の実施により、松山市教育の進展に寄与してきた。

## 小坂 真也氏

松山市教育委員会指導主事を5年間務めた。現在の松山市教育研修センター事務所の前身である教育研修所の運営に尽力し、中核市研修の企画・運営に携わり教職員研修の充実に努めた。

また、校長として保護者や地域住民の教育振興への熱意を受け止め、校区や学校環境の特性を生かした教育を推進し、学社融合を目指した開かれた学校づくりに向けて、学校経営に取り組んだ。全教職員が心一つにして学校を愛し、家族を愛し、地域の学校で学んだことを誇りに思える児童の育成に努めた。

さらに、平成26年度から松山市校長会副会長、平成29年度から小学校長会長として、校長会組織をまとめリードするとともに、松山市教育委員会と緻密に連携を図りながら、校長会の運営を支えた。

## 忽那義博氏

久米中学校長として、人間味あふれるリーダーシップ、生徒や保護者を大切にする深い心、部下を信頼しやる気を伸ばす言葉掛け、地域・関係機関との連携・協働等を重視し、チームとしての学校の組織力を向上させるとともに、活力ある学校づくりを実現させた。また、「いじめの防止・解消」を最重要課題とし、真摯に取り組み成果を収めた。

平成26年度には、松山市教育研究協議会のへき地・小規模校部長として、へき地教育の推進に努めた。また平成30年度は、松山市中学校校長会会長として、松山市教育委員会と綿密に連携し、校長会の運営に尽力した。愛媛県小中学校長会研究大会の実行委員長も務め、大会を成功裏に導いた。

## 池田尊之氏

教育に対する情熱と確固たる信念、優れた指導力と実践力を兼ね備え、日々の学校経営を推し進めた。平成28年度からは、松山市立椿小学校長として学校の伝統を重んじながらも常に改善策を考え、学校の強みを生かした教育活動の展開に尽力した。教員一人一人の資質・能力を見極め、個性を大切にしつつ組織力の強化を図り、児童や保護者の抱える多くの課題や願いに「チーム学校」として対応する礎を築いた。

また、松山市教育研究協議会副会長として松山市の教育をリードするとともに、国語科の顧問校長として学習指導要領の趣旨に則った主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を呼びかけ、児童の確かな学力の育成と定着を推進した。

## 久米倫典氏

校長として、地域の願いや学校への期待を真摯に受け止め、町おこし団体との連携を図りながら、地域行事・学校行事において双方が活躍できる場を積極的に設定し、「家庭・地域を愛し、愛される学校づくり」を目指してリーダーシップを発揮した。また、不登校生の居場所づくりに関しては、夜間登校の受入れを行うなど、教室復帰や自立支援において地域から大きな信頼を得た。さらに、登校時間の変更や「振り返り時間」の確保など、生徒の目線に沿った校時帯による学校経営は、家庭からの支持を得るとともに、教職員の「働き方改革」の一助となる成果を上げた。

平成30年度特別支援学級設置学校長協会第55回全国研究協議会（香川大会）では、「インクルーシブ教育システム構築のための校内体制づくり」について報告し、校長の役割について範を示した。

## 山中茂明氏

松山市の教員として38年間勤務に精励してきた。平成11年からは松山市小学校体育連盟理事長として、また平成25年からは松山市小学校体育連盟監事として、小学校体育の健全な振興を図ることに尽力した。

平成24年からは3年間松山市小学校教頭会の副会長を務めた。さらに、平成27年からは松山市小学校教頭会会長を3年間務め、指導的立場としてその運営に力を発揮した。その間、四国地区小中学校教頭会研究大会愛媛大会の実行委員となり、中心となって企画運営にあたるなど、教頭会の充実・発展に大きく寄与し実績を残した。

学校現場においては、公民館や教育会と連絡を密にするなど、地域とのつながりを大切にされた学校運営に力を尽くした。教頭として教職員のみならず保護者・地域からの厚い信頼を得た。

## 八塚久氏

明るく誠実な人柄である。10年間主幹教諭として、教職員の能力・適性や勤務状況等の把握に努め、適切な指導・助言を行った。職務の責任をよく自覚し、率先垂範の姿勢で校内諸規定等の周知徹底を図った。厳しい指導もあるが勤務態度も真摯で清廉であることから、教職員からの信頼は厚い。

部活動の指導においても、使命感と奉仕精神にあふれ、ソフトテニス部の指導では、副顧問として毎日コートに出向き援助した。時にユーモアを交えての積極的な交流ぶりには、高いリーダー性が感じられ、よい集団関係が築かれていた。

日々誇りとやりがいを感じながら職務に専念している姿は頼もしく、主幹教諭として学校運営への貢献度は極めて高い。

## 山下美江子氏

明るい性格と常に前向きな姿勢で学級経営や教科経営にあたってきた。特に家庭科教育においては、授業実践を通して指導力を高め、平成5年度に松山市で行われた全国技術・家庭科研究大会において、「家庭の経済」領域の授業を公開したり、平成23年度中四国技術・家庭科研究大会においては研究発表を行ったりした。

また、愛媛県総合教育センター勤務時には、家庭科教育について県下小中学校への指導を行うとともに、個人研究に取り組んだ。さらに、松山市技術・家庭科主任会の会長、愛教研技術・家庭科委員会の管区長や研究部長などの要職を歴任するなど、その活動範囲は勤務校のみにとどまらず、県下の家庭科教育の充実・発展に大きく寄与した。

### 松山市教育会 教育功労者表彰に関する規程」より

第1条 この規程は、松山市教育会会則第4条第4号に基づく事業を行うために定めるものである。

(目的)

第2条 この表彰は、会員の中で、学校教育及び社会教育の伸展に著しく貢献した個人または団体に対して、その功績をたたえるとともに会員の意欲の高揚を図り、松山教育の向上発展に寄与することを目的とする。

(内容)

第3条 表彰は、次の功績に対して行う。

- 1 学校教育について、顕著な功績のあったもの。  
(学校経営、学級経営、各教科及び教科外等の研究や実践)
- 2 社会教育について、顕著な功績のあったもの。  
(各種の社会教育活動、学校と家庭、社会との関連に関する教育活動)  
(一部抜粋)

# 第12回 教育講座①

## メンタルヘルスの理解と対応 ～教職員のメンタルヘルス～

講師 愛媛県総合教育センター 教育相談室

指導主事 宇都宮 由紀 先生

令和元年7月24日（水）午前10時から、エスポワール愛媛文教会館で、1回目の教育講座を開講した。まず、清水会長から、「この教育講座は、先生方の夏休みの勉強の機会として設け、実践的指導力を高めることを目的としている。本講座のテーマである教職員のメンタルヘルスについて、教職員が一人で悩み解決することは難しい。学校の様々な立場の方が関わりながら明るく過ごし、子どもたちを教育することが必要である。」と挨拶があった。続いて、講師の宇都宮先生から、メンタルヘルスケアの必要性、基礎知識、ストレス対策、職場のコミュニケーションについての講話があった。

### 1 メンタルヘルスケアの必要性

#### (1) メンタルヘルスとは

国際労働機関【ILO】によると、精神的健康の回復・保持・増進を全部含めてメンタルヘルスである。精神的健康とは、困難に対処し生活を上手くコントロールして人生のより高い目標にチャレンジできる状態であり、課題を達成できることで充実感を感じられる状態である。

#### (2) メンタルヘルス不調とは

精神障害や自殺のみならず、ストレスや強い悩み、不安など、労働者の心身の健康、社会生活及び生活の質に影響を与える精神的及び行動上の問題を幅広く含むものである。

#### (3) 教職の特性と危機の原因

教職の特性として、再帰性【教育行為の責任や評価が、児童生徒や保護者から絶えず直接的に返ってくること】、不確実性【教師が教育行為を通じて発信するものが、対象となる児童生徒や保護者にどう受けとめられるかわからないということ】、無境界性【教師の担う職務が多岐にわたり、また、「ここまでやれば完成」というゴールが見えにくいものであるためにある、仕事がプライベートな時間や場所まで入り込みやすいこと】がある。この特性が教師の心身の不調と密接に関係している。また、教職生活における危機の原因として、「児童・生徒に振り回される」、「職員間での孤立」、「保護者との人間関係」、「管理職との軋轢」「同僚とのトラブルやいじめ」、「多忙」、「異質性の高い学校への転勤」「新任（リアリティショック）」、「部活動における生徒・保護者との軋轢」、「望まない担任や分掌」等がある。

#### (4) 教師のメンタルヘルス不調

最も多いのは抑うつ状態に陥る燃えつき症候群である。燃え尽き症候群とは、長期間にわたり人を援助する過程で、解決困難な課題にさらされた結果、極度の心身の疲労と情緒の枯渇をきたす症候群であり、自己卑下、仕事嫌悪等の状態になる。教師の仕事は感情労働【相手の精神を特別な状態に導くために、自分の感情を誘発、または抑圧することを職務にする精神と感情の協調が必要な労働】である。そのため、あまりにも一心不乱に仕事に献身すると、燃えつきてしまう危険性があることが指摘されている。

## 2 メンタルヘルスの基礎知識

### (1) 仕事によるストレスと関連のある健康問題

心の病気には、「睡眠障害」、「依存症」、「適応障害」、「パニック障害」、「不安障害」、「強迫性障害」、「うつ病」、「統合失調症」など、体の病気には、「心臓病」、「腰痛（慢性化）」、「腕の痛み」、「首の痛み」、「胃腸疾患」、「免疫機能低下」などがある。

## 3 自分のためのストレス対策

### (1) ストレスとは

外部から物理的、化学的、生理的、心理的に受けるさまざまな環境刺激であるストレッサーとストレッサーが個人的に与える様々な影響や個人の中に引き起こされる心身の反応であるストレス反応がある。

### (2) ストレスマネジメントにとって重要な5つの視点

「何がストレッサーになるか」「ストレッサーに対してどんな認知的評価をするか」「日頃からコーピングレパートリー【コーピング:ストレスに対する意図的な対処や工夫のこと】をもっているか」「利用できるソーシャルサポートがあるか」「どんなストレス反応があるか」が重要である。

### (3) コーピングについて

参加者全員でコーピングレパートリーリストを作成し、その内容をペアで紹介した。宇都宮先生からは、コーピングは効果があるもの、コスト（時間・労力・費用）がかからないもの、健康に悪影響がないもの、他人に迷惑がかからないものなどがよいと説明いただいた。また、リラクゼーション法として呼吸法、筋弛緩法【筋肉の緊張と弛緩を繰り返し行うことで心身をリラックスさせる方法】、TFT【思考場療法：鍼のツボをタッピングすることで心理的問題の症状を改善させていく方法】などを紹介していただき、演習を行った。

## 4 職場のコミュニケーション

### (1) コミュニケーションについて

バッドコミュニケーション（批判する、評価する、提案する、自分の話をする、激励するなど）とグッドコミュニケーション（受容する、聴くことに徹する、ノンバーバルな部分も意識するなど）について説明していただき、参加者同士で演習を行った。

### (2) アサーションスキルについて

ステップ1（事実：客観的な事実や状況を述べる）→ステップ2（気持ち：自分の気持ちを表現する）→ステップ3（配慮：相手の立場や状況に配慮する）→ステップ4（意志：自分の考えや希望を明示する）→ステップ5（次のチャンス：今後についてフォローする）という順に表現することで、自分も相手も大切にできる表現ができると教えていただいた。

最後に、宇都宮先生から「職場で話せることが大事、一人でも話せる先生がいることが必要である。各学校でこのことを意識して職場環境づくりに努めてほしい。」というお話があった。演習を交えながら詳しく考えることができ、とても有意義な講座となった。

### <参加者の感想>

- ・様々な理論を基に説明いただいたので知識が広がりました。教えていただいた内容を生かしながら、職場でのメンタルヘルスに心掛けたいと思います。
- ・心の健康チェックシートなど、様々な活動や資料は自校での研修会に使いそうです。

# 第12回 教育講座②



## 特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援 ～特別支援教育の観点を取り入れた学級経営、授業づくり～

講師 愛媛県総合教育センター 特別支援教育室  
指導主事 鶴井宏治先生

令和元年7月30日（火）午前10時から、エスポワール愛媛文教会館を会場に、2回目の教育講座を開講した。まず、清水会長から、「今回の講座を通して、多様な特性をもった子どもたちとの関わり方を学び、2学期の学級経営に役立てていただきたい。」と挨拶があった。続いて、講師の鶴井先生から、子どもの抱える様々な困難についての支援や、特別支援の視点に立った学級経営・授業づくりについての講話があった。

### 1 こんな子はいませんか？

＜学習面でちょっと気になる＞

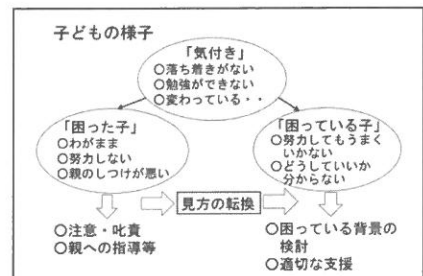
- ・板書をノートに書き取ることができない
- ・質問の意図とずれている発表（発言）がある・・・等

＜行動面でちょっと気になる＞

- ・約束やルールが守れない
- ・注意の集中の継続が難しい・・・等

＜対人関係でちょっと気になる＞

- ・人と協力して行う行動が難しい
- ・大勢よりも一人でいることが多い・・・等



文部科学省の調査では、通常学級において、知的発達の違いはないが、学習面や行動面で著しい困難を示す児童の割合は6.5%にのぼっている。また、単一の困難さだけでなく、複数の困難さを併せもつ児童も存在している。

### 2 困難さへの気づきから支援へ

#### (1) 「困った子」から「困っている子」へ

子どもの日々の実態について、その子の性格や家庭環境などのせいにして「あの子は困った子」という認識でいると、こちらの指導も注意や叱責、親への指導が中心になりがちである。

「努力はしてもうまくいかない。」「どうしていいかわからない。」というように、「困っている子」という認識をもち、その背景に応じた適切な支援を行うことが重要である。

#### (2) 見方を変える

例えば、「一つの作業が長く続かない」→「〇〇分は集中できる」、「学習意欲がない」→「〇〇は意欲的に行える」というように、できていないことではなく、できることに目を向ける見方に変えることが大切である。できることをヒントに、できないことへの支援を考えていくことが特別支援教育の基本である。

## (3) 特別支援教育における支援

特別な支援が必要な子どもには、「ないと困る支援」である。そして、他の子どもにとっては、「あると便利な支援」である。どの子どもにとっても「あると便利な支援」を増やしていくことが大切である。

**2 特別支援教育の観点を取り入れた学級経営・授業づくり**

## (1) 不注意、多動性－衝動性等の困難さを抱える児童への支援

背景として、外的刺激によって内的思考が妨げられやすい、行動や感情のコントロールが苦手、といったことが挙げられる。例えば、以下のような支援が考えられる。

- ・授業に必要なものだけを用意する。
- ・整理の仕方をプリントにして配布する等、手順を確認できる工夫を行う。
- ・学習のルールを掲示し、視覚的な理解を促す。
- ・授業の進め方を黒板に提示する等、1時間の学習内容に見通しがもてる工夫を行う。
- ・ヒントカードを用意し、段階的に考えることを促す。 . . . 等

## (2) 読み書き、聞く話す等の困難さを抱える児童への支援

背景として、目や耳の情報処理の苦手さ、認知処理過程の偏り、不器用さなどが挙げられる。例えば、以下のような支援が考えられる。

- ・使い易い文房具を使用する。
- ・色や字のフォント等、見え方への配慮を行う。
- ・読んでいる行以外を隠す、読んでいる行にラインを当てる等、読み易くする工夫を行う。
- ・ノートやワークシートに対応した板書を行う。
- ・指示は簡潔にする、大切な話には前置きを行うなど、話し方の工夫を行う。
- ・ワークシートを工夫し、話すための手掛かりを示す。 . . . 等

## (3) 対人関係に困難やこだわりを抱える児童への支援

背景として、他者の行動ややり取りから、気持ちや考えを想像することを苦手としていることなどが挙げられる。例えば、以下のような支援が考えられる。

- ・曖昧な表現を避け、具体的な表現で伝える。
- ・月、週の予定を示すなど、行動に見通しをもたせる工夫をする。
- ・学級でソーシャルスキルトレーニングを行う。
- ・褒めるとき、叱るときの基本的な対応方法に気を付ける。
- ・マイナスな言動を減らす等、自尊感情を高める関わりを行う。
- ・学級内での役割を与える等、自己有用感を高める手立てを行う。 . . . 等

鶴井先生から、県総合教育センターでも、特別支援教育の観点を取り入れた授業の工夫についての研究を行っており、ホームページに資料を掲載しているので、活用してほしいというお話があった。つまずきを抱えた子どもの目線になった体験を交えつつ、具体的な支援の方法を詳しく学ぶことができ、とても有意義な講座となった。

**<参加者の感想>**

- ・困っている子どもがどのように見えたり、聞こえたりしているかを疑似体験したことで、子どもの立場に近づけたように感じます。思い浮かぶ子どもに2学期やってみます。
- ・県立の特別支援学校や高校での支援の様子を知ることができ、支援のつながりを勉強できました。

## ブロック編成

区名	学 校 名	区名	学 校 名
1区	番町小、味酒小、八坂小、東雲小、清水小、姫山小、 <b>勝山中、東中</b>	5区	堀江小、潮見小、久枝小、和気小、みどり小、 <b>鴨川中、内宮中、北中</b>
2区	新玉小、雄郡小、素鷲小、桑原小、たちばな小、双葉小、 <b>拓南中、雄新中、桑原中、城西中</b>	6区	湯山小、日浦小、道後小、湯築小、伊台小、五明小、 <b>道後中、湯山中、日浦中、旭中</b>
3区	味生小、生石小、垣生小、余土小、味生第二小、さくら小、 <b>津田中、垣生中、余土中、西中</b>	7区	浮穴小、石井小、荏原小、坂本小、椿小、石井東小、石井北小、 <b>久谷中、南中、南第二中、椿中</b>
4区	三津浜小、宮前小、高浜小、興居島小、中島小、 <b>三津浜中、高浜中、興居島中、中島中</b>	8区	久米小、小野小、北久米小、福音小、窪田小、 <b>久米中、小野中</b>
		9区	浅海小、難波小、立岩小、正岡小、北条小、河野小、栗井小、 <b>北条北中、北条南中</b>

## ブロック紹介

### 第3ブロック理事 関谷 芳郎

第3ブロックは、松山市の南西部に位置し、味生小、生石小、垣生小、余土小、味生第二小、さくら小、津田中、垣生中、余土中、西中の6小学校4中学校の10校で構成されています。

ブロック活動は、他のブロックとあまり変わらないと思いますが、本年度の二つの活動を紹介します。

まず、8月7日（水）にさくら小学校の運動場で行われた「第10回グランドゴルフ大会」です。この大会は、生石小学校が世話係校として初めて行われてから早くも10年が経ちました。今年はOB会員22名、現役会員31名の53名で行いました。団体戦は9チーム、残りのメンバーは個人戦への参加というルールで競技を行います。現役会員のことを考えると、夏休み中の実施が一番良いとの意見で実施していますが、近年は暑さとの闘い（熱中症対策）が大きな悩みでした。この問題については開始時間を1時間早めて午前10時頃までに競技を終えることで2ゲームを行い、親睦を深めています。



今年の優勝チームは味生支部でした。

続いて、11月に予定している研修旅行です。これは、余土支部とさくら支部が交互に計画を立て、第3ブロック全体に参加をお願いしています。これも10年近く続いていますが、原則としては1日のバス旅行で四国、中国、瀬戸内海の島などでの研修を実施しています。今年の旅行は、西予ジオパークを訪ねる研修を計画しています。主な研修場所は、吉田町の「大乘寺」・三瓶町ジオパーク「須崎海岸」・城川町「ギャラリー城川」の見学です。これは昨年の計画でしたが、「西日本豪雨」で道路や海岸に通行できないところがあるということで中止としました。今年は是非とも実施して、復興の様子も研修したいと思っています。